

ふるさと歴史アラカルト

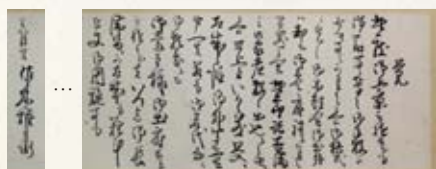
岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物3 榎取素彦（小田村文助） 1

今回は文の再婚相手であつた榎取素彦（自身も再婚）について紹介します。

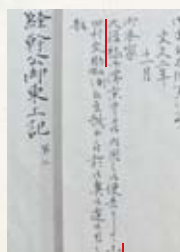
榎取素彦は文政12（1829）年、萩藩医の松島瑞蟠の次男として生まれ、儒者の家である小田村家に養子に入つた後、小田村伊之助と称しました。藩校明倫館で儒学を教えたほか、嘉永3（1850）年には江戸藩邸勤務となつています。翌年、兵学修業で江戸に来ていた吉田松陰と知り合い、嘉永6年に帰国の際、松陰の妹寿と結婚しました。松陰が投獄されたときには代わりに松下村塾で指導もしています。その後、萩藩主毛利敬親の側近として外交を担当することとなりました。万延元（1860）年、名を文助と改め、岩国との関係もこの頃から記録に出てきます。

藩主吉川経幹にも協力を求めていたことに関係しています。自らの屋敷で小田村と会つた経幹は、京都の情勢を小田村から伝えられ、来年の春には一度上京する旨をとりあえず返答しています。しかし経幹や岩国藩士は、岩国が正式な藩と認められていない当時の状況で、全国の藩が集まる京都へ行くことについて、体裁の面で消極的でした。こうした経幹の胸の内を察したのか、翌年の2月7日、敬親が岩国を訪れ、岩国藩を他の支藩（長府、徳山、清末）と同等に扱うことを伝えていきます。

また文久3年4月、経幹が岩国から萩へ向かう途中、山口の宿泊先に小田村が訪れています。これは、3月27日に萩藩から経幹へ送つた上京依頼について、その決心を早くするよう催促に来たものでした。その後、経幹は上京を決心し、4月17日に新港を出発しますが、京都の情勢に詳しく、経幹と交流のあつた小田村も同行しています。



▲岩国藩士の意見書（部分）…「諸藩の家老などが数多くいるため、格式をいかがわしく思われるのは外間が良くない。」と上京に反対している



▲『経幹公御東上記』赤線は小田村文助の記述

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎④0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市 人口・世帯

人口 141,696 人【前月比 -33人】 男性 67,111 人 女性 74,585 人

世帯 66,654 世帯【前月比 -9世帯】 ※外国人人口を含む（平成26年12月1日現在）

交通事故発生件数 11月分事故件数 43件(476件) 死者数 0人(7人) 傷者数 52人(562人)

※高速道路発生分を除く

※（ ）内は平成26年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎②31234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎②95016 FAX②13337